

平成25年度スーパーバイザー事業報告書

豊かな心情を育み、主体的に行動できるたくましい幼児児童生徒を育てる
 ～聴覚障がい児のニーズに応じた教育内容の工夫（キャリア教育に視点を当てて）～

鳥取県立鳥取聾学校

1 テーマ設定の理由

① 鳥取聾学校とは

- ・ 聴覚障がい者である幼児児童生徒等に対する教育を行う特別支援学校
- ・ 明治43年創立。平成22年度には創立100周年を迎えた。
- ・ 幼稚部、小学部、中学部、高等部、地域支援部（教育相談及び通級指導等を実施）の5つの部により構成。西部地区にひまわり分校がある。

<鳥取聾学校教育の基本方針>

聴覚障がい児一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。

【在籍幼児児童生徒数】

	本校	ひまわり分校
幼稚部	6名	2名
小学部	4名	6名
中学部	5名	5名
高等部	5名	
計	20名	13名

(2) 幼児児童生徒等の実態

- ◎明るく、人との関わりを好み、それを求めている。
- △同年代の友だちとの関わりや社会とのつながりが希薄になりがちである。
- △基礎学力の定着、言語獲得・拡充については知的発達や聞こえなど、実態に応じて課題が異なる。

(3) 校内研究体制

○学校教育の基本方針

豊かな心とたくましく生きる力をもつ子ども



○学校の研究テーマ

豊かな心情を育み、主体的に行動できるたくましい幼児児童生徒を育てる
 ～聴覚障がい児のニーズに応じた教育内容の工夫～



○大切にした点

一貫した教育・鳥取聾学校としての系統的段階的指導



○研究方法

地域支援 | 幼稚部 | 小学部 | 中学部 | 高等部

5つの部を縦割りとし、3グループ（「学ぶ」「知る」「表す」）で研究を実施。

① 「学ぶ」グループ

確かな学力を培うために、ことば、かず、国語科、算数・数学科を通して研究を進める。基礎基本の定着を図るための既習事項の確認や児童生徒自身による自己評価、つまずきの記録など授業の質が高まるように授業改善を行う。

② 「知る」グループ

乳幼児期から高等部までのキャリア発達支援の段階表を作成する。本年度は「自己理解・自己管理能力」に特に視点を当て、自立活動や教育相談活動の中で研究を進める。豊かな社会自立を目指すために、授業実践を蓄積しながらよりよい支援方法、指導内容等を検討する。

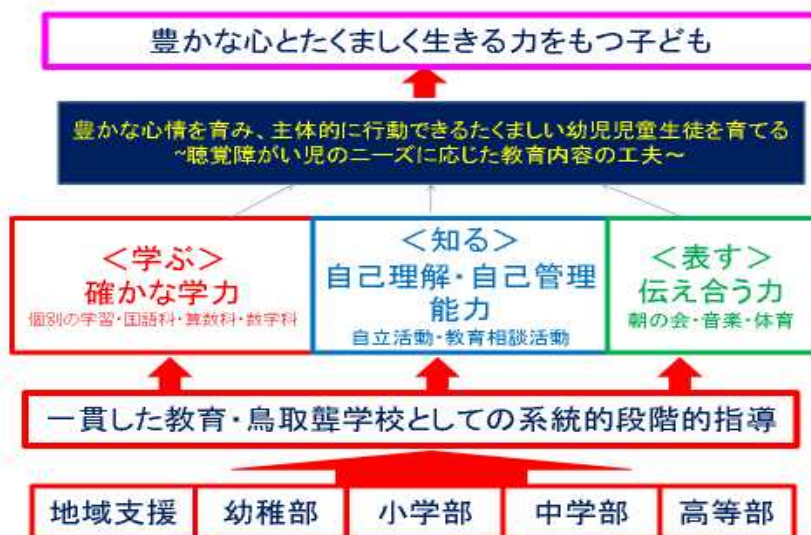
③ 「表す」グループ

伝え合う力を育成していくため、朝の会（幼稚部）、音楽科、体育科の集団での活動を通して研究を進める。乳幼児期から高等部までの伝え合う力の段階表や年間目標のシートを作成する。日々の授業においては、幼児児童生徒の主体的な学習活動を目指し、授業実践の記録を蓄積しながら成果と課題を検討し、授業改善を図る。

本研究会における発表内容は、「知る」グループの取り組みを中心にまとめた。

幼児児童生徒の課題を改善するために、地域支援部（乳幼児教育相談）から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の取り組みを推進していく必要があると考えた。そこで、はじめ

に、本校の乳幼児児童生徒のキャリア発達を支えていくために、各発達段階に沿って育てたい姿（力）を検討し、キャリア発達支援段階表を作成した。次に、学校全体として組織的にキャリア教育を推進していくために、キャリア教育全体計画を作成して、卒業後を見通した一貫性のあるキャリア教育の実践が行えるようにした。そして、最後に全体計画や段階表に基づいた具体的な取り組みを積み重ねることとした。授業実践でキャリア発達の全体に視点を当てて取り



組んでも研究の深まりが難しいため、本校の乳幼児児童生徒の一番の課題である、聴覚障がいを含めた自己への肯定的な理解といったキャリア教育で育成すべき『自己理解・自己管理能力』の育ちに焦点をあてた授業実践を行うことにした。特に、自分の障がいについて正しく理解できるような指導内容や、主体的な学びを引き出す指導の工夫について研究を行った。なお本研究は3年間取り組み、今年度は特に授業実践を中心に取り組んでいる。

2 研究方法

- (1) キャリア発達支援段階表の作成・・・1年次
- (2) キャリア教育全体計画の作成・・・2年次
- (3) 授業実践・・・・・・・・・・・・・・3年次（今年度）

APDCAサイクルを活用し、自立活動を中心に以下のように研究を行った。

- ①Assessment：個別の支援計画
- ②Plan：段階表『自己理解・自己管理能力』と関連付けた指導目標の設定と指導計画の作成
- ③Do：自立活動を中心に全学部で研究授業の実施
- ④Check：ワークショップ型授業研究会の実施
 - “授業参観シート”を活用し、参観の視点の焦点化
 - 付箋を使って参観者全員で授業分析
 - “授業分析ワークシート”を活用し、授業改善に向けてグループ協議および情報の共有化
 - “授業ふりかえりシート”の作成による記録の蓄積と共有化
- ⑤Action：“授業振り返りシート”に基づく授業改善、目標の見直し

3 取り組みの概要

(1) キャリア発達支援段階表

乳幼児児童生徒のキャリア発達を支援するために、「人間関係形成能力・社会形成能力」など4つの能力によって構成したキャリア発達支援段階表を作成し、育成したい能力や態度を明確にして実践に活かせるようにした。各発達段階に沿って育てたい姿（力）を検討し、実際に活用して改訂していきながら現在の段階表に至る。〔別添資料①〕

(2) キャリア教育全体計画

自立に向けたよりよい社会参加と豊かな心の育成という学校教育目標に向け、キャリア教育全体計画を作成した。キャリア教育の目標、各学部のキャリア教育の重点目標など明示し、組織的、系統的な取り組みが推進しているようにした。〔別添資料②〕

(3) 授業実践

①各学部による授業実践（授業研究会の設定）

学部	クラス	教科・領域等	活動・題材名
地域支援部	2歳児	教育相談活動	からだを使って遊ぼう
幼稚部	3歳児	朝の会	朝の会
小学部	第1学年	自立活動	たいせつなほちょうきのこと しりたいな
中学部	第3学年	自立活動	今の僕たちって？ ～修学旅行から自己理解を深める～
高等部	第2学年	自立活動	自分に合った対処法を考えよう

② 業実践における成果と課題

ア 小学部第1学年 自立活動

題材目標	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の管理の仕方がわかる。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-II-U】 補聴器や人工内耳の装用の必要性に気づく。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-III前-U】 自分の補聴器や人工内耳の各部の名前を知る。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-III前-E】
本時目標	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器の扱い方が分かり、清潔に保ったり大切にしたりすることが分かる。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-III前-U】
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○補聴器を擬人化することで、児童の興味・関心を高めた。 ○補聴器の扱い方について、日頃の学校生活とかかわりの深い内容を選ぶことで、児童が普段の生活を振り返りながら考えることができるようにした。
成果	補聴器の扱い方についてイラストなどの視覚的支援教材を準備しておくことで、児童の学習への理解を深めることができた。また、児童にとって「わかる」手がかりを事前に準備しておくことで、教師の発問に対して正確に答えることができ、達成感を得ることができた。
課題	補聴器を適切に扱う必要性への理解をより深めるために、「～だから…しよう。」など、整理した板書の工夫が必要である。また、学習したことの足跡を残し、再度振り返るような機会を設定することで定着を促していく必要がある。

イ 中学部第3学年 自立活動

題材目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来の生き方につながる事として自己の障がい認識を深め、問題解決に取り組もうとする。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-IV-U】
本時目標	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行で頑張ったことを振りかえり、今の自分たちの姿を客観的に捉え、自己肯定感を高める。 【※自立活動3-(3)、キャリア発達支援段階表(B)-IV-U】

指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価を付箋に書き挙げ、自己を示すワークシートに貼る活動を通して、自分について客観的に捉えることができるようにした。 ○修学旅行での様々な人との交流や公共交通機関の利用などの場面における自分の頑張りについて振り返る中で、自己肯定感を高めた。
成果	自己を示すワークシートに今の自分についての全体像を作成する活動を通して、自己について客観的に捉えることができた。
課題	修学旅行中の出来事から、自分の障がいへの理解を深めるような自己分析を行う場面を設定し、さらに自己についての理解を深めるような学習にも取り組んでいきたい。

※自立活動：特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 自立活動の内容より

キャリア発達支援段階表：別添資料①より

③ ワークショップ型授業研究会の導入

それぞれの授業についての参観の視点を“よかったところ”“疑問点”“改善点および具体的な改善策”の3つの観点で付箋に記入しながら、授業分析を試みた。初めての取り組みで、最初は視点についてまとめていくことも難しかったが、繰り返し行ううちに職員も慣れ、活発な意見交換ができるようになってきた。また、授業分析の結果を“授業振り返りシート”にまとめ、全学部で情報共有することで学校全体の取り組みとしての意識を高めることができた。さらに、教育センターより指導主事の派遣を依頼し、ワークショップ型授業研究会の方法についても学ぶ機会をもった。そして、どの職員がファシリテーターになっても会が効果的に進められるように職員の意識や技能を高めた。一方で、参観の視点の焦点化に不十分さがあったために、研究テーマに迫る自己理解について十分に深めるに至らないこともあった。今後はさらに“参観シート”を改善していく必要があると考える。

4 スーパーバイザーの役割

スーパーバイザーに金沢大学人間社会研究域学校教育系武居渡准教授を招聘し、3回本校に来校していただき、指導助言をいただいた。

キャリア発達支援段階表では各学部からでた項目を見ていただき、本校の教育としての系統的・段階的取り組みになっているか、一貫性のあるものになっているかなどを見ていただき、御意見をいただいた。日々、実践をしているにもかかわらず抜け落ちていた項目等についても御指摘いただき、加筆修正を加えながら本段階表の完成に至った。さらに、キャリア教育全体計画との整合性も見ていただき、より活用しやすいものとなっていった。

また、キャリア発達支援段階表が作成しただけにとどまらないように、個別の教育支援計画と関連付けて活用するように御指摘をいただき、APDCAサイクルのAssessmentで関連付けていくこととした。また、キャリア発達支援全体を取

り組むと研究が深まらないので、本校の乳幼児児童生徒の実態に応じて、一番課題である項目に焦点を絞って取り組むことを御指摘いただき、今年度は「自己理解・自己管理能力」に視点をあてて実践を行った。また、実践する教育活動についても絞って取り組んだ方が研究が深まりやすいとの御指導をいただき、教育相談活動と自立活動で実践していった。そして、全ての学部の授業を参観していただき、いくつかの授業をピックアップして授業研究会でも指導助言をいただいた。いずれも具体的な助言をいただけたので、即、実践へと繋がった。

ワークショップ型授業研究会の導入については、参観者からたくさんの意見を抽出できること、視点を絞った協議が行えること等、武居先生からも高い評価をいただいた。

5 成果と課題

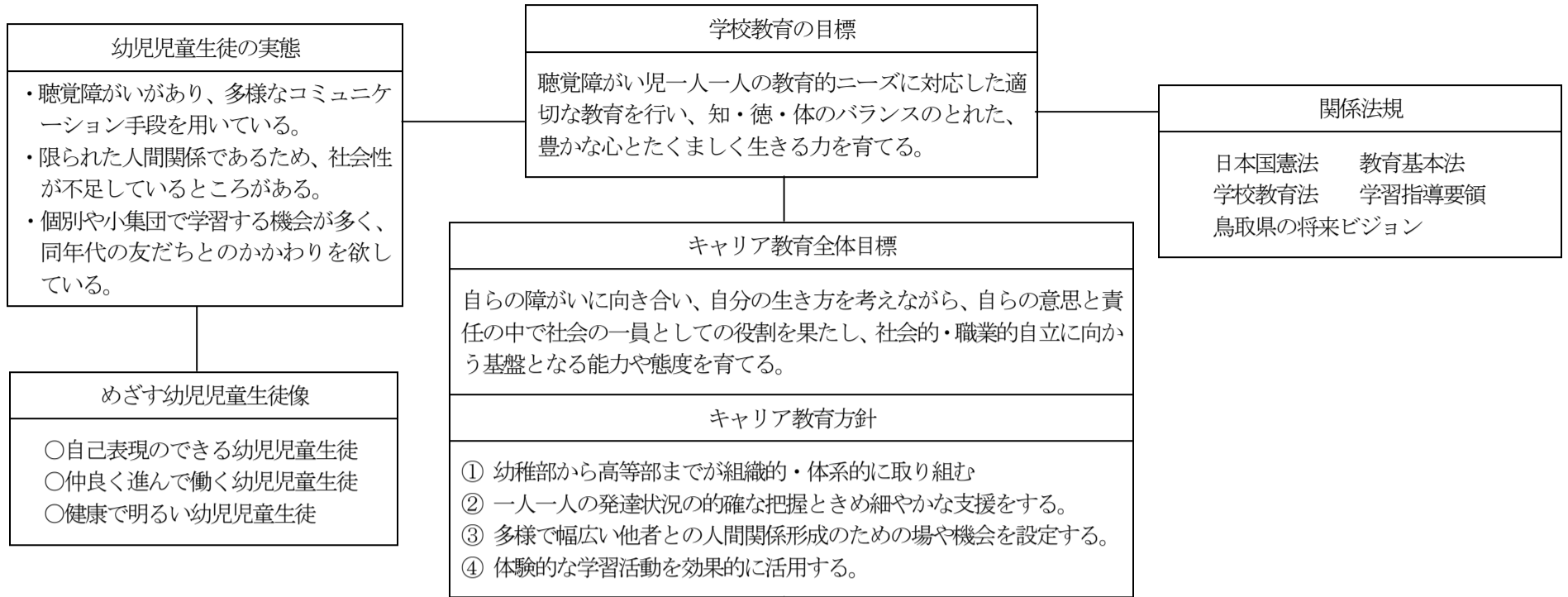
本校におけるキャリア教育が、組織的系統的に考えられ、取り組まれるようになったことは大きな成果であると言えよう。特に視点を当てたキャリア発達支援段階表の「自己理解・自己管理能力」についてはそれぞれの学部で自立活動を中心として実践していった。活動・授業についてグループ全体で参観し、授業分析し合う中で、授業改善の視点が明らかになってきた。そして、乳幼児児童生徒の「自己理解・自己管理能力」も育ってきた。例えば、小学部の児童は、自立活動の授業の中で学習した「話している人を見て聞く」というよい聞き方を、いろいろな場面でできるようになってきている。また、高等部の生徒は、困ったときの対処法の学習から、『もっと手話を広めていろいろな人と関わりたい』と、よりよい社会参加に向け、自分にできることについて考え始めている。子どもたちだけの変容ではなく、教職員も学部を超えたチームワークの向上が見られた。全員参加のワークショップ型授業研究会等の取り組みの中で、教師間の建設的な意見交換が活発になってきた。その中で、授業改善に向けた多様なアイデアの交換が行われ、チームとして一つの授業と向き合うことができた。

今後の課題としては、自立活動における自己理解に関する指導についてさらに具体的な取り組みを積み重ねる必要がある。その中で、“どの時期に”“どのような内容を”という具体的な指導内容の共通理解を各学部そして、学校全体として行っていくことで系統的な指導ができるようにしていく必要があると考えている。そして、この自己理解に関わる指導の系統性と段階表の照らし合わせの中で、より活用しやすい段階表としていく必要がある。

最後に、今後も本校に通うすべての乳幼児児童生徒が自信を持ち、将来に夢や希望を抱きながら、未来を切り拓いていけるような豊かな心とたくましく生きる力を育てる学校づくりを目指して研究を進めていきたい。

期			Ⅰ期		Ⅱ期	Ⅲ期		Ⅳ期	Ⅴ期
			前期	後期		前期	後期		
キャリア発達の段階			人格形成の基礎と人間関係の基盤形成の時期		人間関係の構築・意思決定にかか る基盤形成の時期	進路の探索・選択にかか る基盤形成の時期		現実的探索と暫定的選択 の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期
領域	領域説明	能力における要素	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力・態度						
(A) 人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて、自分の考えを正確に伝えることができることに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	他者の個性を理解する力 他者に働きかける力 コミュニケーションスキル チームワーク リーダーシップ	ア 視線や表情、指さし、発声等で気持ちを表そうとする。 イ 同じ場面で繰り返し使われることばか けになじむ。 ウ 母親や身近な人の行動を真似たり、物のやりとりをしたりしてかかわりを楽しむ。	ア 母親や身近な人とのやりとりの中で気づいたことや自分の気持ちを自分なりの方法で伝えようとする。 イ 友だちに対して関心を持ち始める。 ウ 信頼できる大人のもとで、友だち同士で同じ場所で遊ぶ。	ア 自分の思いを言葉や手話等を使って表現する。 イ 相手の話を最後まで聞いて理解しようとする。 ウ 友だちと仲良く遊び、生活のきまりや遊びのルールを知り、守る。	ア 自分が知りたいことや取り組みたいことを選択して、きちんと伝える。 イ 相手の話を最後まで聞く。 ウ 友だちと協力し、助け合いながら学習や活動に取り組む。 エ 友だちや交流校などの児童とのかかわりを楽しむ。	ア 他者の意見を踏まえて、状況と場に応じて、自分の考えを伝える。 イ 相手の考えを正確に聞き、理解する。 ウ 友だちと協力し、尊重し合いながら学習や活動に取り組む。	ア 友だちと悩みや喜びを共有しようとする。 イ 他者の良さや感情を理解し、受け止めながら自分の考えを伝える。 ウ 相手に応じたコミュニケーション手段を活用しながら積極的にかかわる。 エ 多様な集団の中で、互いに支え合いながら役割や責任を果たそうとする。	ア 互いにわかり合い、支え合える友人を得る。 イ 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。 ウ 多様な他者と場の状況や相手に応じた適切なコミュニケーションを図る。 エ リーダー・フォロワーシップを発揮し、よりよい集団形成を目指してチームワークを高める。 オ 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験的に理解し、習得する。
(B) 自己理解・自己管理能力	自分の障がいについて正しく理解し、「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会(対聾者、対聴者)との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	障がいの自己認識力 自己の役割の理解 前向きに考える力 自己の動機づけ 忍耐力 ストレスマネジメント 主体的行動	ア 心地よい働きかけを受けながら、母親や家族に親しみを持ち、情緒が安定する。 イ 補聴器に慣れ、音や呼びかけに反応する。 ウ 周りのものに興味を持って、見たり触れたり口に入れたりする。	ア 感覚遊びや手指を使った遊びを楽しむ。 イ 大人に見守られながら補聴器の着脱や電池のチェックをしようとする。 ウ 身振りや簡単なジェスチャーを使って自分の伝えたいことを表現できることに気づく。 エ 身近な自然と触れ合う中で様々なことに興味や関心をもつ。	ア 自分の好きなことややりたいことを進んでやろうとする。 イ 補聴器や人工内耳をつけている人とつけていない人がいることに気づき、補聴器等が大切なものであることを知る。 ウ 補聴器等の管理の仕方がわかる。 エ 簡単な手話やキューサインを使うと、自分の思いが相手に伝わるのがわかる。	ア 自分の得意なことや好きなことについて理解する。 イ 自分のできること、やりたいことに進んで取り組む。 ウ 補聴器、人工内耳の装用の必要性に気付く。 エ 自分の補聴器や人工内耳の種類と名称を知り、状況に応じて着け外しをすることができる。 オ 手話やキューサイン、筆談等のさまざまなコミュニケーション手段があることを知る。	ア 自分の長所、短所を知る。 イ 学習やいろいろな活動を通じてできるようになったことに自信を持ち、さらに進んで取り組もうとする。 ウ 補聴器、人工内耳のしくみや必要性について他者に説明できる。 エ きこえのしくみを理解し、オーソグラムを見て、自分のきこえの特徴を知る。 オ 手話やキューサイン、筆談、指文字等の自分に必要なコミュニケーション手段がわかる。 カ よりよい生活実現のために、自分にとってどのような支援が望ましいかを知る。	ア 自分の良さや個性を理解するとともに障がいに起因する身近な諸問題について説明できる。 ウ 自らの将来や進路に関わる課題を認識し、主体的に解決していこうとする。 エ 様々な福祉制度や福祉サービス等に関する情報を自らの生活でどのように活用できるか考える。	ア 障がいから生じる社会生活でのトラブルについての対処方法を理解する。 イ 自分の個性を活かし役割を果たしていくうえで、必要な支援等について検討する。 ウ 聴覚障がい者としての社会的立場を認識しながら学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚する。 エ 障がい者雇用・受験における措置・各種福祉サービスの制度等について自分のニーズに応じて適切に活用できる。
(C) 課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	情報の理解・選択・処理等 本質の理解 原因の追及 課題発見 計画立案 実行力 評価・改善	ア 活動のはじめと終わりがわかる。 イ 活動の見通しを持って、準備や片づけをしようとする。 ウ 実物や写真、絵等を見て、自分の経験や気持ちと結び付ける。	ア 日々の活動や行事について話を聞き、見通しを持って取り組む。 イ 自分のしたいこと、よいと思うことなどを考え、行動する。 ウ 困ったことや苦手なこと、手伝ってほしいこと等を家族や先生に伝え、あきらめずに取り組む。	ア 行事や日々の活動について、見通しを持って積極的に自分の課題に取り組む。 イ 学習やいろいろな活動について、自分なりに目標を決める。 ウ 興味のあることや知りたいことを先生と一緒に調べ、情報を得る方法を知る。	ア 行事や日々の活動について、見通しを持ち、課題に対してよりよい方法や手順を選択したり、試行錯誤したりしながら取り組む。 イ 学習や生活における目標を適切に設定し、達成のために計画を立てながら進める。 ウ 学習の成果や生活から得た様々な経験を、新たな内容や場面で活かそうとする。	ア 自らの将来の希望や目標を実現するために課題を見出し、改善するための計画を立てて実行しようとする。 イ 情報収集の様々な手段を身に付け、内容を正しく整理しながら学習や生活に活かす。 ウ 現在行っている学習と将来の社会生活との関わりを知る。	ア 将来設計、進路希望の実現を目指して課題を設定し、その解決に取り組む。 イ 多様な選択肢の中から自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ウ 将来設計に基づいて今取り組むべき学習や活動を理解し計画を立てる。 エ 卒業後の進路や職業・産業の動向について多面的・多角的に情報を集め、検討する	
(D) キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 多様性の理解(生き方) 将来設計 選択 行動・改善	ア 道具を使って遊ぶ。 イ いろいろなごっこ遊びを楽しむ。	ア 自分のことは自分でしようとする。 イ 身のまわりの出来事や物事に興味を持ち、知ろうとする。 ウ 家族やきょうだいの生活に興味を持つ。 エ 家庭でのお母さんの仕事に興味を持つ。 オ 家庭や学校の中で進んで手伝いをする。 カ よいことと悪いことが分かり、考えて行動しようとする。	ア 身近で働く人々や職業について、興味や関心をもつとともに、将来の夢を持つ。 イ 係や当番活動について、積極的に関わりやり遂げようとする。 ウ 家庭での役割を日常的に行う。	ア 卒業生や先輩などの姿や話などに学び、働くことの大切さや社会でたくましく生きることについて自分の将来との関わりで考える。 イ 係や当番などで働く意義を理解し、自分の役割を果たす。 ウ 家庭での役割を日常的に行うとともに、進んで自分が出来ることを見つけ実行しようとする。	ア 具体的経験(職場体験学習等)を通して勤労の意義や働く人々の思いを知り、自分の将来について考える。 イ 先輩たちの生き方について知り、将来の自分の生き方についての展望を持つ。 ウ 集団における役割の意義を理解し、責任を持って自分の役割を果たす。 エ 進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。	ア 具体的経験(職場体験学習等)を通して多様な職業観・勤労観を理解し、自らの進路決定に活かす。 イ 先輩たちの多様な生き方について知り、将来の自分の生き方に活かす。 ウ 生きがい・やりがいがあり、自己を活かせる生き方や進路を現実的に考える。 エ 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、実現に向けて取り組む。	

キャリア教育全体計画



各学部におけるキャリア教育の目標			
幼稚部	小学部	中学部	高等部
自分の思いや願いをもち、友達や周囲の人と積極的にかかわることのできる幼児を育てる。	自他のよさを見つめ、夢や希望を実現するために積極的に取り組む子どもを育てる。	自他を理解し、夢と希望をもって自らの意思で進路を切り拓こうとする生徒を育てる。	一人一人の社会的・職業的自立に向け、将来への夢と社会の一員として志を抱く生徒を育てる。

キャリア教育指導の領域	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	
各学 部 段 階 に お け る 目 標	幼稚部 人間関係の構築・意思決定にかかわる基盤形成の時期	・得意なことや好きなことを見つけ、楽しみながら取り組もうとする。 ・補聴器や人工内耳に関心をもつ。	・自分のやるべきことやよいと思うことを考え、最後までやりきろうとする。	・身近な人の仕事に興味をもち、進んでお手伝いをしようとする。	
	小学部 進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期	・相手の話を最後まで聴くとともに自分の気持ちや考えを伝えようとする。 ・自分の担当の役割をやりきり、協力して取り組もうとする。	・将来の夢や希望をもち、やりたいことに進んで取り組もうとする。 ・自分のきこえや補聴器、人工内耳の必要性について説明することができる。	・いろいろな仕事があることを知り、自分にできることを進んで見つけ、実行しようとする。	
	中学部 現実的探索と暫定的選択の時期	・他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴くとともに自分の考えを伝えることができる。 ・自身の立場や状況を理解し、役割を果たしながら協力して取り組もうとする。	・自分の良さや個性を肯定的に理解し、主体的に行動することができる。 ・自分のきこえや障がいの諸問題について説明することができる。	・将来設計を達成するための課題を理解し、適切な計画を立てて解決することができる。	・社会の一員として参加するためには義務と責任が伴うことを理解し、多様な情報をもとに自身の将来について考えることができる。
	高等部 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期	・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。 ・自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力して社会に参画しようとする。	・自分の能力・適性を肯定的に理文化し、主体的に行動することができる。 ・障がいから生じる諸問題について適切に対応することができる。	・将来設計を実現するための諸条件や課題を発見・分析し、適切な計画を立てて解決することができる。	・「働くこと」の意義を理解し、自身の将来について具体的に考え、様々な情報をもとに選択・決定することができる。

キャリア教育推進の基盤					
専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	校内の組織づくり	啓発活動
・自主的、主体的な活動を促す具体的な支援の方法 ・幼児児童生徒の思いを育てる進路指導の充実	・進路研修会 ・連絡帳の活用 ・懇談 ・ケース会議、支援会議	・交流及び共同学習 ・地域資源の活用	・福祉・医療・労働機関との定期的な情報交換 ・支援会議の開催 ・他校との連携 ・職場開拓 ・進路開拓	・全体計画、段階表の作成 ・学部、学年、校務分掌間の連携	・学校HPによる発信 ・関係会議等による活動 ・リーフレットの作成